

第4回 斐伊川水系宍道湖東域川づくり検討委員会 議事要旨

【日時】 平成26年9月4日(木) 13:30～16:30

【場所】 島根県民会館 2F 第2多目的ホール

【出席者】 別紙出席者名簿のとおり

【傍聴者】 9名

【内容】

■議事

(1) 現地視察

島根県松江県土整備事務所より説明

(2) 斐伊川水系宍道湖東域河川整備計画の変更について

島根県河川課より説明

(3) アンケートについて

島根県河川課より説明

(質疑応答)

○「河川施設の老朽化対策」、「河川情報提供システム等の整備などのソフト対策」、「特定外来生物の防除の推進」は宍道湖東域河川整備計画本文のどこに反映されているのか。

⇒それぞれの記載箇所は、主に以下のとおり

老朽化対策：P-38

外来種防除：P-39

情報システムの充実：P-40

この他、関連する項目にそれぞれ記載している。

○末次ポンプおよび放水路について、宍道湖への排水口周辺でシジミのへい死が起きている。現在、原因を調査中だが、松江堀川に溜まった腐泥が巻き上がって流れるのが原因ではないかと考えている。ポンプの運用や放水路についてはしっかり意見を聞いてほしい。

○また、手貝水門を含む計4つの水門(潮止)の開閉後に、水門下流のシジミの漁獲量が減少する傾向にあり、現在、農林水産省に調査を依頼している。不要となった農業用水の排水が原因と考えられるので、排水方法等の対応を検討してほしい。

⇒今後の検討課題として認識している。今回の治水計画は「雨から街を守る」という視点を基本として記載している。

○比津川の施行区間の起終点はどこか。図示している区間は上流端ではないと思われる。

○比津川は橋で河道が狭くなっているところがあり、施行区間に橋が含まれるのであれば橋を直すことも必要になると思う。

⇒起点は堀川との合流点で、終点は比津川の県管理区間の上流端である。

⇒橋については計画流量が確保できるように対応する。

○忌部川の施行区間 670m とあるが、この上流、下流の整備は終わっているのか。また、この区間の施工期間はどのくらいか。

⇒下流側の整備は完了しているが、上流側は未施工。忌部川 670m の区間の施行期間は約 20 年。佐陀川の整備は 20 年、緊急性の高い上追子ポンプは約 5 年、今回追加する工事は約 30 年を考えている。

○佐陀川は日本海側から施行中だが、上流側を整備する予定はあるのか。

○洪水の時に支川からの土砂が流れ込み、佐陀川の河床が浅くなっていると漁師から聞く。浚渫を行うことは可能か。

⇒現在の施行区間の整備完了後、上流区間の流下能力等を調べて、整備が必要か検討する。

⇒浚渫は、治水上問題があれば実施する。

○朝酌川等で古代遺跡が確認された際、調査に協力していただいた。良い成果が上がってきており、今後も同じようなことがあった場合には、協力をお願いしたい。

⇒今後も協力していきたい。

○比津川、中川等の植栽は、以前（改修前）の方が潤いがあった。川幅が広くなってコンクリートで整備されるのは良いが、川づくりを進めるときは、以前のように潤いがあり、憩いの場として利用されるような川づくりをして欲しい。

⇒工事実施時には、生態系等に配慮した川づくりを進めていきたい。

○外来生物について、「駆除」と「拡散防止」は記載されている。「外来生物の侵入を防ぐ」視点として、植栽の際などの「導入」についても記載すべきではないか。在来種に影響のあるものに対する記述があった方が良いのではないか。

⇒特定外来種以外の導入について検討する。後日相談させていただきたい。

○アンケートの配布範囲、期間はどの程度か。

⇒当初策定時のアンケートは圏域内の全戸を対象としたが、今回は朝酌川流域に絞って実施することを考えている。配布方法は松江市等と相談中である。幅広い年代から意見聴取したいと考えている。

○アンケートのリーフレットで、いきなり「今回の変更では…」とあり、河川整備計画の変更内容のみの記載となっている。これでは回答者に伝わらないのではないか。

○アンケートがこの状態では、地域の方々は協力してくれないのではないか。

⇒ご意見をいただいて回答者に伝わるよう修正したい。

○アンケートは若い世代の意見を集めるため高校生にも配るとのことだが、リーフレットを配るだけでは、内容の理解は得られにくい。学校等に説明に行ったりしないのか。

○整備計画に関して「妥当性」の設問があるが、何をもって『妥当』なのかの判断がしづらく非常に答えにくい。分かりにくければ、回収率も下がるので、もう少し理解しながら回答できるような工夫が必要ではないか。

⇒以前、学校の先生と相談して、生徒に説明した後にアンケートに回答してもらったことはある。

○議事のまとめとして、

- ・整備計画の本文修正に関しては、「特定外来生物以外の導入」の記述について検討を行う。
- ・「ポンプ排水」や「水門の開閉」等でシジミの漁獲高が減少する問題等については、整備計画での対応ではなく、運用の際の課題として対応を検討する。
- ・アンケートやリーフレットは、もう少し回答しやすいよう検討を進める。事務局が修正したものを各委員に送付し、ご意見をいただいたうえで、その内容を反映させたものを作成する。最終確認は、委員長一任として、配布する。